

「特集を組むにあたって」

東アジア世界史研究センターは、活動を始めて4年が経過した。東アジア・遣隋使・遣唐使・古代国際関係史等々のキーワードが、本センターを示すキーワードとしてそれほどの違和感なく定着化してきたことを実感する。4号まで出した「東アジア世界史研究センター年報」は、学術雑誌として地歩も固めることが出来てきている。これらは、いうまでもなく東アジア世界史研究センターの活動に種々協力していただいている研究者各位のお陰である。

2010年度も多くの研究者に協同していただき、私たちの研究プロジェクト「古代東アジア世界史と留学生」は、昨年度と同様に以下のように公開講座・研究会・シンポジウムを開催した。

* 公開講座 遣唐使外交の終焉と東アジア・日本

日 時 2010年7月10日(土)

場 所 専修大学生田校舎10号館2階10203教室

「趣旨説明」

荒木 敏夫氏(東アジア世界史研究センター代表/専修大学教授)

「モノから見た遣唐使以後の東アジアの交流」

皆川 雅樹氏(専修大学附属高等学校教諭)

「大陸文化の「日本化」と国際交流～白詩と道真～」

佐藤 宗諱氏(奈良女子大学名誉教授)

* 研究会

日 時 2010年9月25日(土)

場 所 専修大学神田校舎1号館7階7A会議室

「贈尚衣奉御井真成を巡る二・三の問題—唐代の外国使節の授官と関連して—」

中村 裕一氏(武庫川女子大学教授)

* シンポジウム モノの移動と古代東アジア世界—朝鮮半島と日本列島を中心に—

日 時 2010年11月20日(土)・21日(日)

場 所 専修大学神田校舎1号館3階301教室

20日(土)

「趣旨説明」

土生田 純之氏(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

「出土遺物にみる百済の対外交流」

山本 孝文氏(日本大学准教授)

「新羅の外来系文物」

宋 義政氏（韓国国立金海博物館館長）

21日（日）

「推古朝と帝国性」

中野 高行氏（東京農業大学第三高等学校教諭）

「考古学からみた日本列島と朝鮮半島の交流－4～7世紀の西日本地域を中心に－」

亀田 修一氏（岡山理科大学教授）

公開講座とシンポジウムは、昨年と同様に200人を超える一般市民の方々や研究者の参加があり、盛況であった。文献史学・考古学からの東アジア世界史への切り込みは、いずれも興味深いものがあり、その反響が期待される。

お忙しい折、報告だけでなく、その原稿化までお願いしたが、幸いなことに、上記の諸報告は、本号にすべて収録できた。原稿をお寄せいただいた各位に御礼申し上げます。

本号には、はじめて「資料紹介」のコーナーを設けた。2011年の年頭の国学院大学で行われた円仁銘のある石刻資料をめぐる学術研究集会終了後の歓談の折、高橋継男氏（東洋大学教授）から、葉國良氏（国立台湾大学教授）が「杜嗣先墓誌」を発見した経緯を記したメモを作っており、邦訳を委ねられていることを伺い、ご無理を乞うて寄稿をお願いして実現できたものである。遣唐使関係資料としてだけでなく日本国号の起源問題にも関わる「杜嗣先墓誌」の検討の際に踏まえておくべき貴重な資料である。年度末の繁忙極まる中、原稿をお寄せいただいた高橋継男先生に御礼申し上げます。

また、窪田藍氏の論文は、東アジア世界史研究センターが鋭意すすめているデータベース「東アジア世界史年表」の制作の過程で生じた論点をまとめたもので、これもまた事業が産んだひとつの成果である。